

近江八幡市立老蘇小学校

令和元年度
エコ・スクール
活動報告書

活動テーマ 一人一人の小さな学びと行動で大きな地球を守ろう

学校敷地内に造成されたビオトープや、学校近隣の自然環境を活用し、地域や保護者の協力を得ながら、老蘇学区や近江八幡市の環境について考える機会をつくり、ふるさとを愛するとともに、持続可能な社会に貢献できる児童の育成をめざす。

1 学校の概要

本校が立地している近江八幡市安土町老蘇地域は、近江八幡市の最東南にある。学校の周りには、田畑が広がり、米や野菜などの農作物の生産や養鶏や養豚などの畜産業が盛んである。近隣には、大規模な工場が建ち並び、新興住宅の建築も進んでいるが、校区内には、豊かな自然が残り、夏にはホタルを見ることが出来る。平成14年(2002年)には、PTAや地域の住民の協力のもと、敷地内にビオトープが造成され、ビオトープ委員会が立ち上げられた。児童にとっては遊び場であり、地域の住民にとっては、交流や憩いの場となっている。

また、平成29年度(2017年度)からは、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)を取り入れ、地域の教育力を活かした学校運営を行っている。

このような、恵まれた自然環境やビオトープ、地域住民の力を活用する中で、ふるさと老蘇の魅力に気づき、ふるさとを愛し、ふるさとのこれからの在り方について考える子どもの育成をめざし、エコ・スクールとして地道な活動を続けている。

2 活動の実際

(1) ビオトープを中心とした活動

ア 学習

ビオトープは子どもたちにとって、身近な遊び場であると同時に、貴重な学習の場であ

る。生活科や理科の学習では、ビオトープの草花や生き物を観察し、季節ごとの自然の様子を学んでいる。縦割り活動で、ビオトープを利用した遊びを考えたり、環境委員会主催のイベントを企画したりする。6年生は親子活動で、数年前の台風で壊れて撤去されていた看板をリニューアルした。



6年親子活動

イ 地域

ビオトープ委員会は、学校、PTA、地域住民からなる組織である。年間5回の整備作業を行うだけでなく、ビオトープをつかった生き物観察会やアウトドア体験、ビオトープまつり、お月見コンサートなどを行っている。

ビオトープまつりは、「地域につながりを」をスローガンに掲げるまちづくり協議会や老蘇こども園とも共催し、老蘇地区の夏の一大イベントとなっている。



おいそびオトプまつり



ビオトープ紹介コーナー

子どもたちは、自然の中での活動を楽しみながら、自然に親しみ、ふるさとのよさを味わっている。

また、おいそまちづくり協議会の防災関連行事に利用されることもあり、地域住民の交流の場ともなっており、コミュニティスクールとして、地域の教育力向上の一端を担っている。

(2) 西の湖をつかった活動

1年生から3年生では、ビオトープで水環境について考える。4年生では、安土学区にある西の湖や、馬淵学区にある浄水場を訪れ、広い視野から水環境について考える。西の湖や琵琶湖の水質の変化や西の湖に生息する魚や鳥の観察活動を通して、水環境の大切さに気づく。

(3) 田んぼをつかった活動

5年生では、地元営農組合、JA グリーン近江、びわこ揚水機場、ぼてじゃこトラストの方々の指導のもと、米の栽培と収穫を行っている。そこでは、もみまきに始まりニゴロブナの放流、水生生物の観察や揚水機場の見学活動など、米の栽培における水の大切さや、人間や生き物と水環境の関わりについて、体験的に学ぶ。一粒の米に込められた生産者の思いや、その大切さ、人間や生き物の生活における水の重要性に気づいた。

米の収穫後は、お世話になった方々を招き、「お米感謝祭」を開催した。米づくりの工夫や努力、生産者の願いなど、学習してわかったことを発表するとともに、炊きたてのご飯を味わった。

事後に行った児童の感想文には、「コメの種類に興味を持つようになった。」や「お米を一粒残さずに食べようと思う。」などの意見が目立った



(4) 身近な資源をつかった活動

本校では、給食の牛乳パックをリサイクルしている。全校児童が、給食後に牛乳パックをきれいに洗い、切り広げ、それを干す。翌朝、環境委員会の子どもがそれを集め、回収ボックスに入れる。集められた牛乳パックは、業者が回収し、リサイクルされる。



牛乳パック干し場



回収箱

また、6月と12月には、PTA活動の一環として、資源回収活動を行っている。隣にある「老蘇こども園」や「老蘇こども園保護者会」と協力して行っている。本校児童と保護者だけでなく、老蘇学区の住民にも呼びかけ、古紙やアルミ缶などを回収している。

回収作業は高学年児童と保護者があたり、収益はPTA会費に繰り入れ、学習活動に活用している。

3 成果と課題

ビオトープなどの自然環境や地域の支援体制が手厚いなど、本校は環境教育を進めるための条件に恵まれている。各学年での学習でも、その恵まれた素材を活かして学習活動を展開することができる。

児童に対して行った学校評価では、「身の周りの自然や環境問題について学習し、その大切さについて理解できていますか。」という問いに対し、約八割が肯定的に答えている。ビオトープや地域の自然環境にふれる機会を積極的に作った結果だと言える。

その一方で、二割弱は否定的な回答である。実際の学習や体験が環境に関する学習との意識が低いためと考えられる。

学校や地域全体で、環境学習を意識できる児童の育成がこれからの課題である。

学校名	近江八幡市立老蘇小学校
住所	近江八幡市安土町東老蘇1300
電話番号	0748-46-3079
E-mail	oiso-es@omihachiman.ed.jp